

各位

向暑の候、平素は児童館事業にご理解ご協力誠にありがとうございます。少しづつですが、やっといろいろな行事が再開されるようになってきました。私も仕事柄、積極的に人と会うことも控えていましたが、このところ急に、いろんな方から連絡を頂き、再会の機会がありました。その中でも、私が初めてこの仕事に就き、初めて関わった子が、わざわざ連絡をしてきてくれました。現在東京に住んでいるが実家に帰って来たので会いたくなって・・・と遠いところから三回も通って来てくれました。なんと三十年前の取り組みを覚えていてくれ、処分しきれなかった手書きのおたより(断捨離しなくてよかった!)を見ながら当時の話がいっぱいできました。初めて児童館の職員になったのは、子育てがひと段落してからでした。保育士の資格を取得したものの経験は全くありません。毎日とにかく必死でした。先輩の先生方を見習い、保護者には初心者ですが一緒に子育てしていきましようと言え、子ども達とはとにかく関わろうと毎日くたくたで、我が子には「どうせ僕たちより学童さんの方が可愛いんやろう」と言われたこともありましたが、そんな時に関わった子ども達も学童での生活を覚えてくれていたことに感動しました。

改めて感じました。その一瞬一瞬を、自分なりに一所懸命関わったことは、相手の思い出という引き出しの隅っこにそと残してくれていることもあるのだと・・・そして何かのきっかけで思い出して、会いたいなあと思えることが・・・人好きを私には本当に幸せな仕事です。

又、一人子どもが生まれたよとやって来てくれました。学童ではなく、中学校になってから児童館に通って来てくれた子です。「ここにきていたから今の仕事に出会えた(保育士)」と彼女は言ってくれます。毎日学童つ子と一緒に遊んでくれていました。お母さん方と一緒にトーンチャイムも練習しました。そのお母さん方も先日再開して、沢山のばあば達(まだお若いですが)が目を見ていました。まさに、で愛・ふれ愛・つながり愛です！今年嬉しい事がいっぱいです！

楽しい夏を過ごすぞ！皆さんもおいでませ！

令和四年七・八月号の便りに添えて

社会福祉法人 積慶園

京都市嵯峨野児童館

館長 飯吉昌子